

報告第1号

平成20年度石川県立学校卒業式に係る石川県教育委員会告辞について

## 告 辞

晴れの卒業式を迎えられた皆さん、おめでとうございます。喜びと希望に満ちた門出を心からお祝い申し上げます。

皆さんは、これまでの学校生活で、学ぶ姿勢や、たくましい心と体、かけがえのない友情を育てられました。そして今、それぞれの道を踏み出すにあたり、将来に向けての決意を新たにしていることと思います。

昨年8月の北京オリンピックでは、水泳の北島康介選手、ソフトボールの上野由岐子選手や坂井寛子選手など、多くの日本の選手が活躍しました。中でも、北島選手は、平泳ぎで2大会連続して金メダルを獲得しましたが、前回アテネ大会の栄光の後、決して順調であったわけではなく、怪我に苦しみ、勝てない時期もありました。その逆境を乗り越え、再び頂点に立つことができたのは、彼の強じんな精神力はもとより、家族やコーチ、スタッフをはじめとする多くの人たちのサポートがあったからです。「一人じゃここまでやれなかった」という彼の言葉からは、自分を支えてくれる人たちに感謝し、夢に向かって努力を重ねることの素晴らしさが伝わってきます。

また12月には、南部陽一郎さん、小林誠さん、益川敏英さんがノーベル物理学賞を、そして下村 脩おきむさんがノーベル化学賞を受賞しました。自らの疑問の解明に情熱を傾け、失敗を重ねながらも、安易に妥協することなく研究を続けた4人の姿勢から、私たちは、物事の本質をとらえるために、強い信念をもって突き進むことの大切さを学びました。

現在、我が国は、少子高齢化や地球温暖化などの進行に加え、100年に一度ともいわれる世界的な経済危機に直面しております。このような時代にあっては、課題を解決する道筋を自ら見出し、多くの人たちと協力して行動していくことが求められます。これまでに皆さんが、授業や学校行事、部活動などで培った、自ら学び自ら考える力や、人間関係を形成する力は、今後、様々な課題を乗り越えるにあたって、必ず役立つに違いありません。

これからの時代を担う皆さんは、自らの目標の達成に向けて、創意工夫を重ねながら粘り強く努力を続けてください。そして、人とのつながりを大切に、相手を思いやる心をもって、活力ある社会を築いていくことを期待しています。

今日まで皆さんを温かく見守り、導いてくださった保護者や先生方への感謝の気持ちを忘れず、生まれ育ったふるさとに愛着と誇りを持ち、心豊かに人生を歩んでください。

皆さんの今後の健康と活躍を祈って、はなむけの言葉といたします。

平成21年3月

石 川 県 教 育 委 員 会